Nikon

スピードライト

SB-27

使用説明書

Jp

安全上のご注意

このたびは、ニコンSB-27をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告・注意の詳細につきましては、P.11～P.13をご参照ください。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

ご使用になるカメラについて

SB-27は、暗い所での撮影はもちろん、日中でも補助光として幅広くご活用いただける、簡単操作のスピードライトです。
お使いになる前に本書をお読みいただき、SB-27を正しくお使いください。

ご使用になるカメラについて
あなたのカメラはどのグループ？

本書では、特に記載のない限りニコンカメラをＡ～Ｇの7つのグループに分類して、SB-27との対応を、各カメラグループごとに説明しています。
各カメラのグループ分類表は、次ページ（☞P4）にあります。ご使用になるカメラがどのグループに属するかをご確認の上、本書をお読みください。

各カメラのグループ分類表

		グループ	A	B	C＊3	D	E	F	G ※
		カメラ／撮影モード	F5 F100 F90Xシリーズ F90シリーズ F80シリーズ ＊2 ニコンu2 F70D	F4シリーズ ニコンu F-801s F-801 プロネア600i ＊2	F-601 F-601M	F60D F50D F-401x	F-501 F-401s F-401 F-301	FM3A FA FE2 FG ニコノスV ＊4	F3シリーズ ＊5 ニコンus New FM2 FM10 FE10 ニコン
AUTO位置	TTL	3D-マルチBL調光＊1	■	□	□	□	□	□	□
AUTO位置	TTL	マルチBL調光＊1	■	□	□	□	□	□	□
AUTO位置	TTL	TTL-BL調光	□	■	■	■	□	□	□
AUTO位置	TTL	簡易TTL-BL調光	■	■	■	■	□	□	□
AUTO位置	TTL	TTLプログラムフラッシュ	□	□	□	□	■	□	□
AUTO位置	TTL	TTL調光	■	■	■	□	■	■	□
AUTO位置	A	外部自動調光＊6	■	■	■	■	■	■	■
M位置		マニュアル発光	■	■	■	■	■	■	■

■：撮影可　□：撮影不可

＊1　3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称して、マルチエリアBL調光と呼びます。
＊2　F80シリーズ、プロネア600iでは、簡易TTL-BL調光はできません。
＊3　一部機能の設定をカメラ側で行うため、「Bグループカメラ」とは操作手順が異なります。
＊4　接続には陸上用シンクロコード（別売り）が必要です。
＊5　取り付けにはガンカプラーAS-4またはAS-7（いずれも別売り）が必要です。AS-17を装着するとFグループと同様のTTL調光が可能です。ただし、マルチフラッシュは使用できません。
＊6　A～FグループカメラはP73を、GグループカメラはP42をご参照ください。
※　表に記載されていないF・F2などのカメラは、このGグループの欄をご参照ください。

説明書の見方、使い方

この使用説明書では、カメラ側の操作よりもSB-27の操作方法を中心に説明してあります。
従いまして、カメラ個々の操作方法や、操作に関する注意事項等の詳細につきましては、ご使用になるカメラの使用説明書を参照してくださいますようお願い致します。
この使用説明書は、本書と別紙で構成されています。
- 本書は、撮影前の準備から基本編、応用編へと、順を追って説明しています。
- 別紙では、このスピードライトでどんな撮影ができるのかを説明しています。
…本書を読むための補助として、ご利用ください。

表記上の約束

- 本書では、特に記載のない限りニッコールレンズを以下の2種類に大別して表記します。

CPU内蔵ニッコールレンズ	・D/Gタイプレンズ ・IXニッコールレンズ※ ・D/Gタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）/Ai-Pタイプレンズ
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ	・Ai-Sレンズ ・Aiレンズ ・シリーズEレンズ、他

※　IXニッコールレンズは、IX240システム一眼レフカメラ「プロネア」専用のレンズです（35mm版カメラには使用できません）。

〈 **参考** 〉……知っておくと便利なことが書かれています。

（☞P 00）………参照ページが書かれています。

目次

応用編

資料編

各部の名称

Fボタン（☞P 20、29、31、33、35、37、39、41、43、65）

表示パネル（☞P 9）

レディライト（☞P 21）

モードスイッチ（☞P 22）

フラッシュボタン（☞P 22）

ロックナット（☞P 18）

取り付け脚（☞P 18）

カメラ連動接点

ロックピン（☞P 18）

シンクロターミナル（☞P 78）

外部電源コネクター（☞P 77）

電池ぶた
（☞P 15）

カメラ設定スイッチ
（☞P 16、73）

ZOOMボタン（☞P 24）

M／ISOボタン
（☞P 24、27、28、30、47、65）／
（☞P 23）

表示パネルの表示内容について

・表示パネルの液晶には指向性があるため、斜め上から見ると読み取りにくくなり、やや下の方向から見ると読み取りやすくなります。

・約40℃以上の高温下では液晶表示が黒くなることがあります。また、約5℃以下の低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も、常温時には正常に戻ります。

ご確認ください

■保証書について

この製品には、保証書がついていますのでご確認ください。

…保証書の詳細は、☞P 92の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有償）。

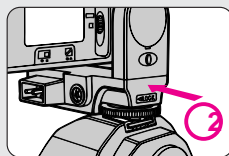
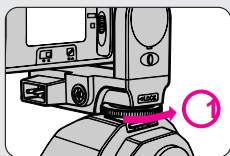
■本製品を安心してご使用いただくために

本製品は当社製カメラおよびレンズ、アクセサリーなどに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

…他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

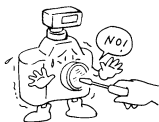
CE “CEマーキング”について

CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

SB-27をカメラから外す場合は

セーフティロック機構対応カメラとの組み合わせで、SB-27を外す場合はロックナットを①の矢印方向に十分にゆるめてから、ゆっくり引き抜いてください。

…ロックナットを回している途中で急に重たくなった場合は、無理に回さないで、いったんSB-27の脚部を②の矢印方向に軽く押してから、もう一度ロックナットをゆるめると、軽く回ります。

⚠ 警　告

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをすることがあります。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る

分解禁止

発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。電池を取り出す際、火傷に十分注意すること。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり水をかけたりしないこと

発火したり感電することがあります。

使用禁止

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと

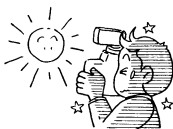
爆発、火災の原因になることがあります。

⚠ 警　告

禁　　止

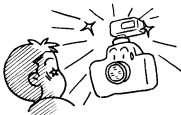
ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息することがあります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害になることがあります。

⚠ 注　意

発光禁止

目の近くでスピードライトを発光しないこと

一時的な視力障害になることがあります。

感電注意

ぬれた手で操作しないこと

感電の原因となります。

放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること

ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。

⚠ 注　意

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

禁　　止

電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと

破裂、発火の原因となります。

使用注意

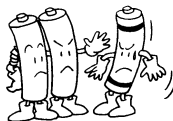
電池に表示された警告・注意を守ること

破裂、発火の原因となります。

使用注意

使用説明書に表示された電池を使用すること

発熱、発火の原因となります。

禁　　止

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使わないこと

破裂、発火の原因となります。

撮影前の準備

撮影に入る前に準備していただきたいことや、
覚えていただきたいことが、
書かれています。

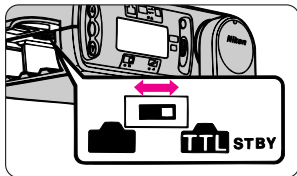
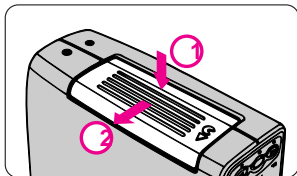
電池の入れ方

単３形、1.5V以下の次のいずれかの同一種類の電池を4本使用してください。

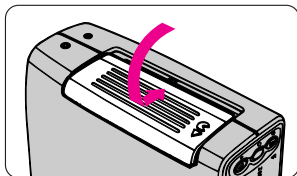
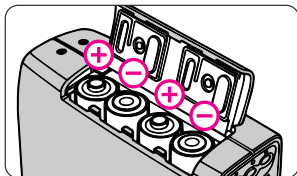
・アルカリ乾電池（1.5V）
・リチウム電池（1.5V）
・ニカド電池（充電式）（1.2V）
・ニッケル水素電池（充電式）（1.2V）

※高性能マンガン乾電池のご使用はおすすめできません。

…電池の取り扱いについては☞P 84を参照してください。

1 電池ぶたを開け、カメラ設定スイッチを設定します。

A～FグループカメラとのOK組み合わせ時はTTL STBYに、Gグループカメラとの組み合わせ時は■に設定してください。

…カメラ設定スイッチの詳細は、☞P16、P73

2 電池4本を入れて、電池ぶたを閉じます。

電池は、4本とも同一メーカーの同一種類の新しい電池を使用してください。

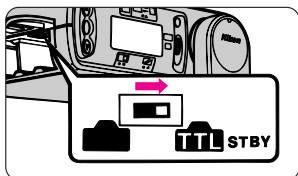
〈参考〉

SB-27は各部の設定状態を保持するために、SB-27の電源がOFFになった後、約30秒間メモリー機能が働きます。従って、この間に電池を交換すれば、データの再設定は必要ありません。

電池の無駄な消耗を防ぐスタンバイ機能について（各カメラ共通）

SB-27とカメラを共に約80秒間無操作でいると、SB-27の電源が自動的にOFFとなり、電池の無駄な消耗を防止します（スタンバイ機能）。

スタンバイ機能の設定方法

■TTL調光が可能なA～Fグループカメラの場合

SB-27の電池室内にあるカメラ設定スイッチを、TTL STBY側に設定してください。

…側に設定すると、スタンバイ機能が働きません。

スタンバイ機能でOFFになった電源をONにするには

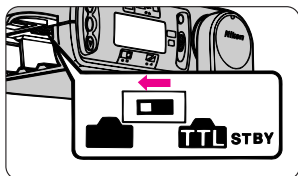
シャッターボタンを半押しすると、電源がONになります。

…SB-27のフラッシュボタンを押した場合も電源がONになります。この場合は電源のみONになり、発光しません（☞P22）。

下記の設定状態のとき、スタンバイ機能は使用できません。

- FA、FE2のシャッタースピードがM250またはBに設定されているとき
- FG、ニコノスVのシャッタースピードがM90またはBに設定されているとき
- FM3Aに取り付け、シャッタースピードがBのとき

SB-27を使用しないままバッグなどに入れて持ち運ぶ際は、電源が不用意に入るのを避けるために、モードスイッチはOFFにしてください。

■TTL調光ができないGグループカメラの場合

スタンバイ機能は使用できません。カメラ設定スイッチを、必ず■側に設定してください。

…TTL STBY側では使用できません。

〈参考〉

1台のSB-27を、TTL調光が可能なカメラとTTL調光ができないカメラに共用して用いる場合は、カメラ設定スイッチを■側に設定してください。モードスイッチがAUTO位置の際に、TTL調光が可能なカメラは自動的にTTL調光モードに、また、TTL調光ができないカメラは外部自動調光モードに切り換わります。

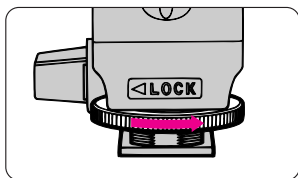
…カメラ設定スイッチを■側に設定した場合は、TTL調光が可能なカメラをご使用の場合でも、スタンバイ機能は働きませんので、電源スイッチの切り忘れに注意してください。

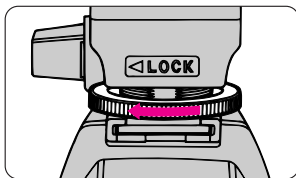
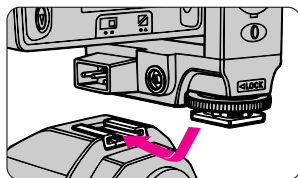
※F50D、F-601、F-601Mカメラをご使用の場合

SB-27の電池室内にあるカメラ設定スイッチが■のときカメラの電源がOFFになると、表示パネルのTTL表示がA表示に変化しますが、故障ではありません。モードスイッチがAUTO位置で撮影の際はTTL表示となり、調光制御もTTLで行われます。

カメラへの取り付け方

SB-27をカメラに取り付ける際は、不用意な発光を避けるため、SB-27とカメラの電源をOFFにしてください。

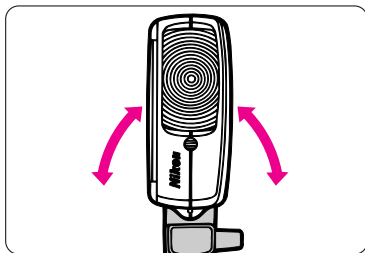
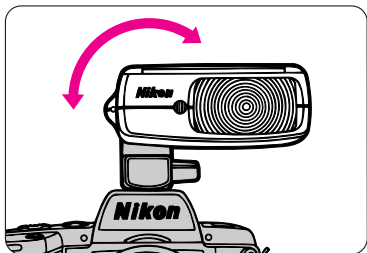
1 ロックナットを回してゆるめます。

…ロックナットを回すと音がしますが、異常ではありません。

2 SB-27をカメラに取り付け､ロックナットを締め付けます。

SB-27をカメラから外す場合は

セーフティロック機構対応カメラとの組み合わせでは、SB-27のロックナットを締め付ける時にカメラのアクセサリーシューのロック穴にSB-27のロックピンが自動挿入され、SB-27が不用意に外れるのを防ぎます（セーフティロック機構）。このため、SB-27をカメラから外す場合は、ロックナットを十分にゆるめてから外してください（☞P10）。

発光部のセット方法

発光部のセット

SB-27の発光部（フラッシュヘッド）は上方向、左右方向に回転します。クリック位置でご使用ください。

通常の撮影では、発光部を横位置でご使用ください。

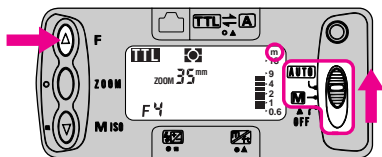
- 撮影者側から見て、発光部を左側にセットした場合、影は被写体の右後方に写り、右側にセットした場合は左後方に写ります。
- 発光部を縦位置にセットした場合は、上からの照射のため、影は被写体のアゴの下や真後ろに写ります。

…発光部を上方向、または左方向にセットしてのバウンス撮影も行えます（☞P53）。

m／ft 表示の切り換え方

m／ft表示の切り換え方

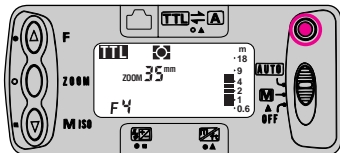
SB-27の表示パネルの調光距離表示の単位を、m（メートル）表示またはft（フィート）表示のいずれかに設定できます。

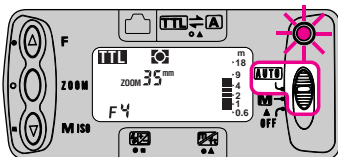
…工場出荷時はm（メートル）に設定されています。

Fボタンを押しながら、モードスイッチをOFF位置からMまたはAUTOにするごとに、mとft 表示が切り換わります。

…ft表示に設定して電源ONのまま電池を入れ直した場合はm表示となります。

レディライトの点灯と点滅について

SB-27のレディライトは、次の場合に点灯、点滅します。

点灯：充電完了表示

SB-27の充電が完了して発光可能な状態になると、レディライトが点灯します。
撮影の際は、レディライトの点灯を確認してから撮影してください。

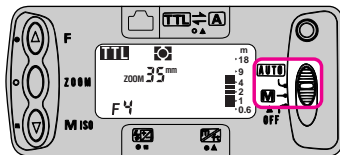
点滅：フル発光警告表示

AUTO位置で撮影時に、SB-27がフル発光して露出不足のおそれがあるときは、
発光直後にレディライトが約3秒間点滅して警告します（☞P 44）。

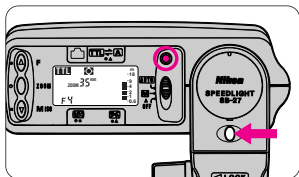
…点滅警告したときは、調光範囲、絞り値、撮影距離などを確認し、もう一度撮影することをおすすめします。

電池交換の目安

・アルカリ乾電池および単三形リチウム電池使用時に、レディライトが点灯するまでに30秒以上かかる場合は、電池を交換してください。
・ニカド電池使用時に、レディライトが点灯するまでに10秒以上かかる場合は充電してください。

発光テストをするには

1 モードスイッチをMまたはAUTOにします。

スピードライト撮影が可能な状態になると、レディライトが点灯します。

2 レディライトの点灯を確認してからフラッシュボタンを押して、SB-27の発光を確認してください。

※電池の残量が少ない場合には、発光後レディライト点灯までに長い時間を必要とするようになり、電源が自動的にOFFになることがあります。

〈参考〉

スタンバイ機能（☞P 16）でOFFになった電源をONにする際にも、フラッシュボタンを使用できます。

…この場合には、フラッシュボタンを押すと電源がONになり、SB-27は発光しません。二度目以降は通常の発光テストが行えます。

フィルム感度の設定方法

SB-27のAUTO位置でのフィルム感度連動範囲は、次のとおりです。

・A、B、C、DグループカメラおよびF-501、301の場合：ISO25～1000

・F、GグループカメラおよびF-401s、401の場合　　：ISO25～400

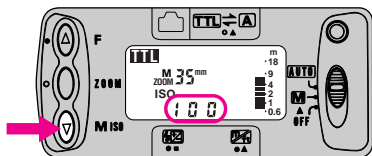
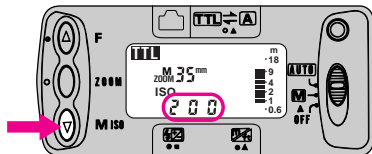
■A、Bグループカメラの場合

フィルム感度は自動的に設定されますが、表示パネルには表示されません。

…ISO値の入力はできません。

■C、D、E、F、Gグループカメラの場合

以下の手順でフィルム感度（ISO値）を設定してください。

1 ISOボタンを押して、ISO感度の数値を点灯させます。

2 使用フィルムのISO値を設定します。

ISOボタンを押すごとに数値が変化し、押し続けると早送りで変化します。
使用フィルムのISO値を表示させてください。

照射角の設定方法

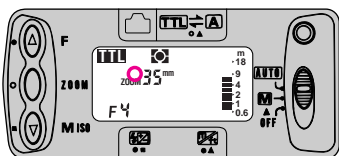
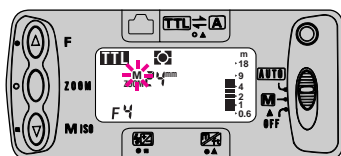
SB-27の照射角は、装着するレンズの焦点距離やレンズのズーミングに応じて、水平位置の場合には、24mm、28mm、35mm、50mmの4段階に変化します（バウンス反射板／拡散板使用時は、照射角は変化しません）。

…フラッシュヘッドが水平に設定してある場合の照射角表示は、24→28→35→50の4段階で変化し、垂直に設定してある場合は、35→50→70の3段階で変化します。

…照射角の設定方法は、カメラとレンズの組み合わせによって異なります。

A、BグループカメラにCPU内蔵ニッコールレンズを装着した場合

装着レンズの焦点距離に合った照射角が、自動的にセットされます（オートパワーズーム機能）。

①オートパワーズームの状態

②オートパワーズーム解除の状態

…レンズの焦点距離が照射角表示にない場合は、最も焦点距離に近い照射角位置にセットされます。

…ZOOM文字の上側に、Mが表示されていない①がオートパワーズームの状態です。Mが点灯している場合は、Mが消灯するまでZOOMボタンを押してください。

〈参考〉オートパワーズーム機能を解除して、任意の照射角を固定できます

1 ZOOMボタンとMボタンを同時に約2秒間押し続けると、ZOOM文字の上側に②のM表示が点滅して、オートパワーズーム機能が解除されます。

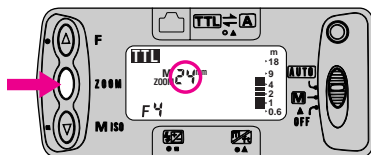
2 解除後はZOOMボタンを押して、任意の照射角をセットしてください。

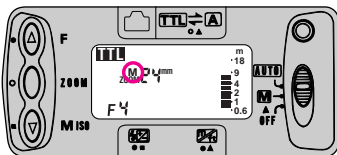
…この方法でセットすると、電源をOFF/ONにしても、レンズを交換しても、照射角は変化しません。

※オートパワーズームに戻す場合は、再度手順1の操作を行ってZOOM文字上側のM表示を消灯させます（この操作後もMが点灯している場合は、Mが消灯するまでZOOMボタンを押してください）。

左記ページ以外の組み合わせで使用する場合

装着レンズの焦点距離に合った照射角を手動でセットします。

1 ZOOMボタンを押して、照射角をセットします。

…照射角表示はZOOMボタンを押すごとに変化します。
ズームレンズ装着時は、短い方の焦点距離に合わせてセットすれば、すべての焦点距離をカバーできます。
（例：28〜85mmのズームレンズの場合は、28mmにセットします。）

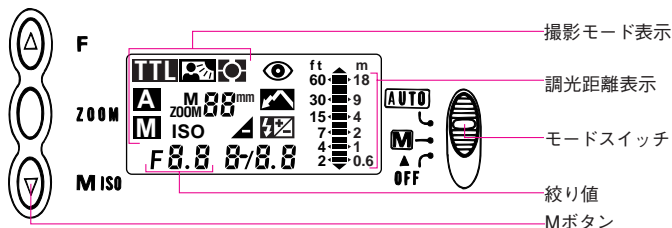
2 ZOOM文字の上側に、手動セットのM表示が点灯していることを確認します。

基本編

各グループカメラとSB-27のAUTO位置で
可能な撮影方法を説明しています。

［作例：マルチエリアBL調光］

※M（マニュアル）位置での撮影方法は☞P 46
A～Fグループカメラで外部自動調光撮影を行う場合は
☞P73

撮影モードを選択する

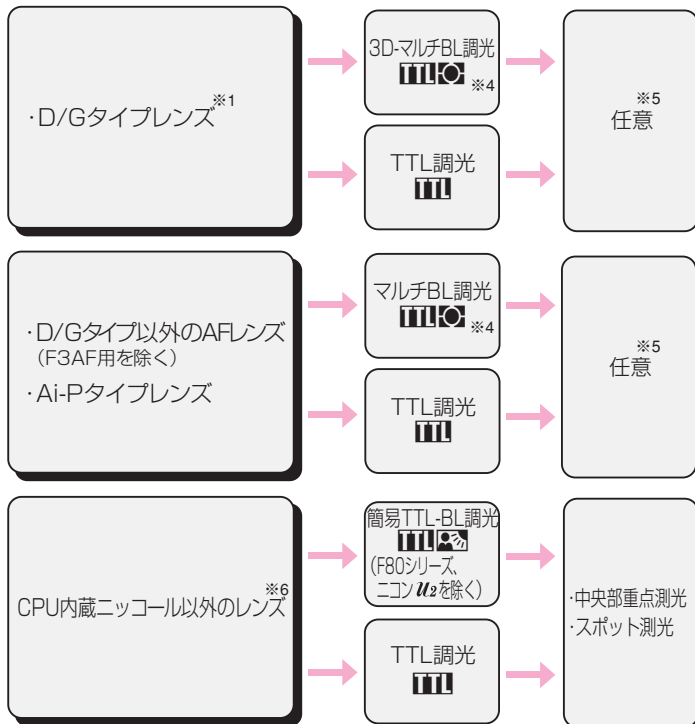
SB-27のモードスイッチをAUTOに設定すると、各グループカメラによって可能な撮影が自動的に決まります。

各グループカメラごとの撮影方法は、下記の参照ページをご覧ください。

カメラグループ	可能な撮影	表示パネルの撮影モード表示	参照ページ
A※1	マルチエリアBL調光	TTL	P 28
	簡易TTL-BL調光	TTL	
	TTL調光	TTL	
B※1※2	TTL-BL調光 簡易TTL-BL調光	TTL	P 30
	TTL調光	TTL	
C	TTL-BL調光 簡易TTL-BL調光	TTL	P 32
	TTL調光	TTL	
D	TTL-BL調光 簡易TTL-BL調光	TTL	P 34
E	TTLプログラムフラッシュ TTL調光	TTL	P 36
F	TTL調光	TTL	P 40
G※3	外部自動調光	A	P 42

※1　SB-27の表示パネルの撮影モード表示は、Mボタンを押すごとに順次切り換わります。

※2　プロネア600iでは、簡易TTL-BL調光はできません。

※3　カメラ設定スイッチ（☞P17）が位置に設定してある場合のみ可能です。

AUTO位置での撮影の手順(Aグループカメラ)
(F5、F100、F90X・F90シリーズ、F80シリーズ、ニコン*u2*、F70D)

※1 F90X、F90シリーズ、F70DにGタイプニッコールレンズを装着時は、露出モードAおよびMは使用できません。

※2 SB-27の撮影モード表示は、Mボタンを押して切り換えてください。

※3 F5、F100およびF80シリーズカメラの測光モードをスポット測光に設定した場合は、自動的にTTL調光撮影となります。

※4 表示パネルに◉が点灯時は、モニター発光が行われます。

※5 ニコン*u2*では、スポット測光は使用できません。マルチパターン測光ではマルチエリア調光となり、中央部重点測光ではTTL調光となります。

※6 F80シリーズ、ニコン*u2*にCPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合は、露出モードをMにセットした場合のみ撮影可能で、TTL調光となります。ただしカメラの露出計は使用できません。絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。

4 露出モード

・シャッター優先オート
・プログラムオート

5 絞り値の設定と調光範囲の確認方法※7

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)シャッターボタンを半押しして、表示パネルの調光範囲を読み取ります。

4 露出モード

・マニュアル※8
・絞り優先オート

5 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

1)シャッターボタンを半押しして、レンズまたはカメラで絞りを調整して、被写体までの距離と表示パネルの調光範囲を確認し、絞り値を設定します。

4 露出モード

・マニュアル
・絞り優先オート

5 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

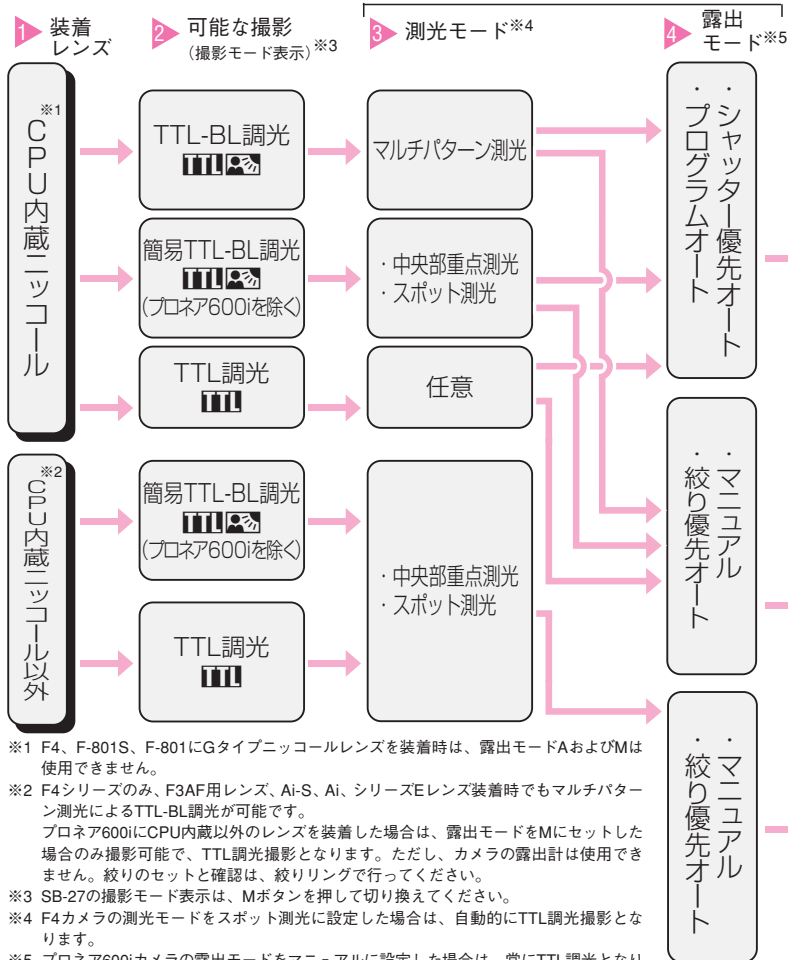
2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。

6 撮影

※7 F5カメラの露出モードがSまたはMのとき、カスタムセッティングで同調シャッタースピードを1/300に設定すると1/300TTL高速シンクロ撮影が可能です（この場合の調光範囲の確認方法は☞P 44を参照してください。）

※8 ニコンU2の露出モードがMのときは、マルチエリア調光を使用できません。

AUTO位置での撮影の手順（Bグループカメラ）
（F4シリーズ、ニコン*u*、F-801s・F-801、プロネア600 i）

〔撮影までの手順〕

※1 F4、F-801S、F-801にGタイプニッコールレンズを装着時は、露出モードAおよびMは使用できません。

※2 F4シリーズのみ、F3AF用レンズ、Ai-S、Ai、シリーズEレンズ装着時でもマルチパターン測光によるTTL-BL調光が可能です。
プロネア600iにCPU内蔵以外のレンズを装着した場合は、露出モードをMにセットした場合のみ撮影可能で、TTL調光撮影となります。ただし、カメラの露出計は使用できません。絞りのセットと確認は、絞りリングで行ってください。

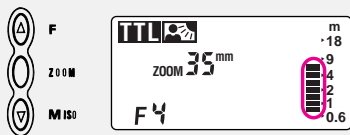
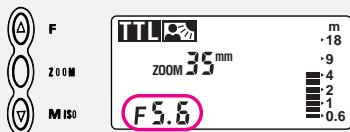
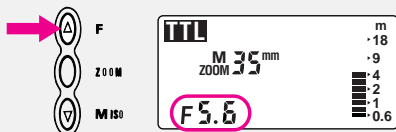
※3 SB-27の撮影モード表示は、Mボタンを押して切り換えてください。

※4 F4カメラの測光モードをスポット測光に設定した場合は、自動的にTTL調光撮影となります。

※5 プロネア600iカメラの露出モードをマニュアルに設定した場合は、常にTTL調光となります（簡易TTL-BL調光はできません）。

5 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

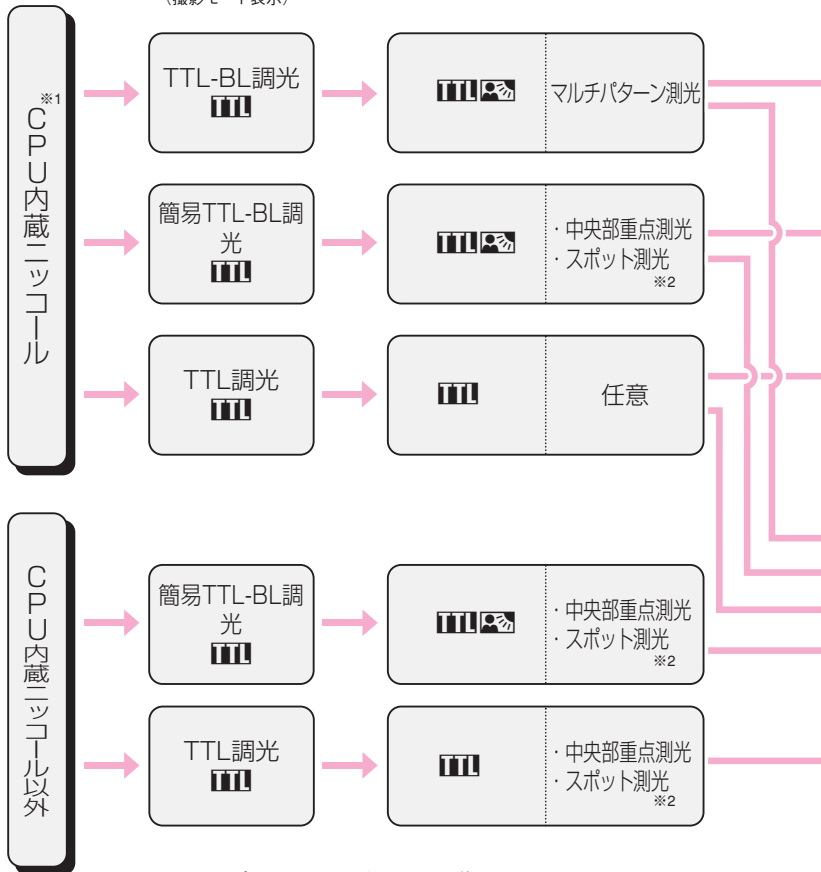
1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

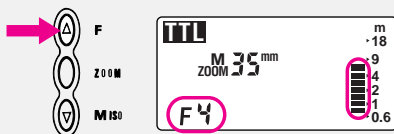
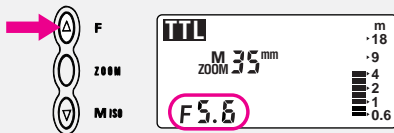
2)シャッターボタンを半押しして、表示パネルの調光範囲を読み取ります。

1)シャッターボタンを半押しして、レンズまたはカメラで絞りを調整して、被写体までの距離と表示パネルの調光範囲を確認し、絞り値を設定します。

1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。

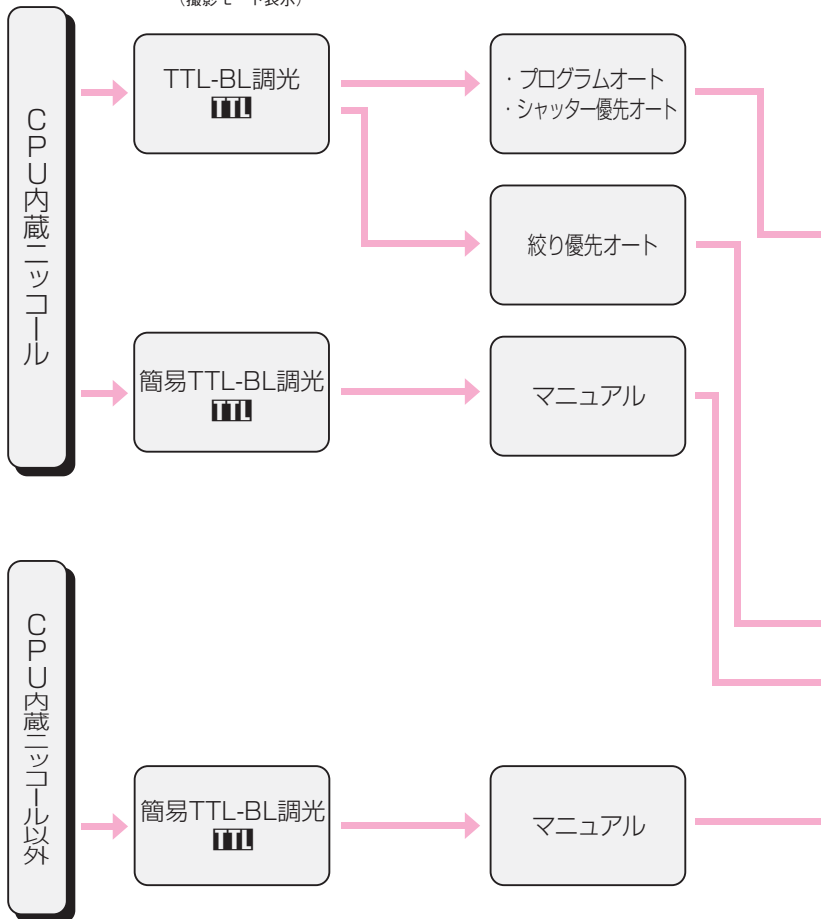
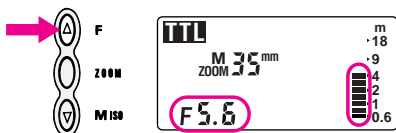
6 撮影

レディライトの点灯を確認して、撮影します

AUTO位置での撮影の手順（Cグループカメラ）
(F-601・F-601M)

〔撮影までの手順〕

※1　Gタイプニッコールレンズは、F-601に使用できません。
※2　スポット測光はF-601のみ可能です。

4 露出モード
5 絞り値の設定と調光範囲の確認方法
6 撮影
・シャッター優先オート
・プログラムオート
1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。
2)シャッターボタンを半押しして、ファインダー内の絞り値を読み取ります。
3)読み取った絞り値を、Fボタンを押して表示パネルに設定し、調光範囲を確認します。
F
ZOOM
M ISO
TTL
M ZOOM 35mm
F 4
m
18
9
4
2
1
0.6
・マニュアル
・絞り優先オート
1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。
F
ZOOM
M ISO
TTL
M ZOOM 35mm
F 5.6
m
18
9
4
2
1
0.6
2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。
レディライトの点灯を確認して、撮影します

AUTO位置での撮影の手順（Dグループカメラ）
（F60D、F50D、F-401x）

〔撮影までの手順〕

4 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)F60Dカメラの時およびF50Dカメラのアドバンスモード時は、ファインダー内の絞り値を読み取り、Fボタンを押して表示パネルに設定し、調光距離を確認します。

F50D	撮影状況	晴れ	曇り、日陰等	室内一般
	SB-27に設定する絞り値※（ISO100）	f8	f5.6	f4

※F50Dカメラのシンプルモード時は、上表の撮影状況から絞り値を選び、その絞り値をFボタンを押して表示パネルに設定し、調光範囲を確認します。

F-401X	撮影状況	太陽を含むシーン	晴れ	曇り、日陰等	室内一般
	SB-27に設定する絞り値（ISO100）	f16	f8	f5.6	f5.6
	シャッター優先オート時の設定シャッタースピード※	1／125秒			1／30秒

※シャッター優先オート時は、上記のシャッタースピードをカメラに設定した場合を想定した絞り値です。

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

3)読み取った絞り値を、F60D・F50Dはカメラの表示パネルに、F-401Xは絞りダイヤルに設定します。

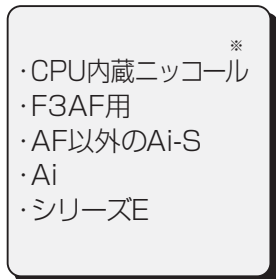
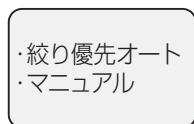
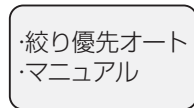
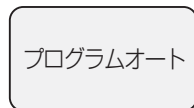
1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。

5 撮影

レディライトの点灯を確認して、撮影します。

AUTO位置での撮影の手順（Eグループカメラ）
（F-501、F-301）

〔撮影までの手順〕

※ Gタイプニッコールレンズは使用できません。

4 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)使用フィルム感度によって、下表から絞り値を選び、Fボタンを押して表示パネルに設定し、調光範囲を確認します。

ISO感度	25	50	100	200	400	800
絞り値	f2.8	f4	f5.6	f8	f11	f16

1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

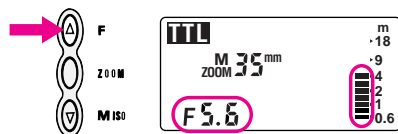
2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。

5 撮影

レディライトの点灯を確認して、撮影します。

AUTO位置での撮影の手順（Eグループカメラ）
（F-401s・F-401）

〔撮影までの手順〕

4 絞り値の設定と調光範囲の確認方法

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)下表の撮影状況から絞り値を選び、その絞り値を、Fボタンを押して表示パネルに設定し、調光範囲を確認します。

撮影状況	太陽を含むシーン	晴れ	曇り、日陰等	室内一般
絞り値（ISO100の場合）	f16	f8	f5.6	f5.6
シャッタースピード	1／125秒			1／30秒

※シャッター優先オート時は、上記のシャッタースピードを設定した場合を想定した絞り値です。

1)レンズの絞りを最小絞りに設定します。

2)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

3)読み取った絞り値を、カメラの絞りダイヤルに設定します。

1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。

2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。

5 撮影

レディライトの点灯を確認して、撮影します。

AUTO位置での撮影の手順（Fグループカメラ）
（FM3A、FA、FE2、FG、ニコノスV）

〔撮影までの手順〕

※ Gタイプニッコールレンズは使用できません。

※1 自動的に下記のシャッタースピードになります。

- FM3A、FA、FE2の場合は1/250秒
- FG、ニコノスVの場合は1/90秒

※2 下記のシャッタースピードではTTL調光ができません。

- FA、FE2の場合はM250とB（バルブ）
- FG、ニコノスVの場合はM90とB（バルブ）

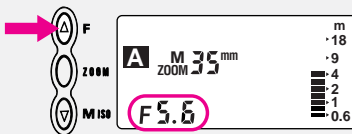
AUTO位置での撮影の手順（Gグループカメ

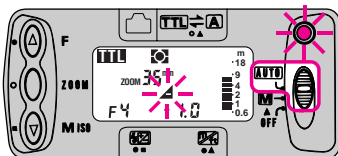
Gグループカメラとの組み合わせでは、SB-27の電池室内のカメラ設定スイッチを▲に設定してください。その後、モードスイッチをAUTO位置に設定すると、自動的に外部自動調光撮影となります。
…SB-27の表示パネルに撮影モード表示**A**が表示されます。

〔撮影までの手順〕

※ Gタイプニッコールレンズは使用できません。

〈参考〉
- SB-27と撮影レンズに同一の絞り値を設定すると、適正露出が得られます。
- 選択可能な絞り値は、Fボタンを押すごとに表示パネルに表示されます（表示される絞り値が選択可能な絞り値です）。

3 露出モード
・絞り優先オート
・マニュアル
4 絞り値の設定と調光範囲の確認方法
1)Fボタンを押して絞り値を変えながら、調光範囲となる絞り値を読み取ります。
F
ZOOM
M ISO
A
M
ZOOM
35
mm
F5.6
m
18
9
4
2
1
0.6
2)読み取った絞り値を、レンズに設定します。
5 撮影
レディライトの点灯を確認して、撮影します。

発光直後にレディライトが点滅した場合は

SB-27のモードスイッチをAUTOにして撮影時に、SB-27がフル発光して露出不足のおそれがある場合は、発光直後にカメラとSB-27の両方のレディライトが約3秒間点滅して警告します。

…Aグループカメラと組み合わせ時には、SB-27の表示パネルにTTL自動調光アンダー表示◢が点滅して、露出不足量の目安となるアンダー量も表示されます。

カメラの露出モードに応じて、以下の方法で撮影し直してください。

・プログラムオートまたはシャッター優先オート時は、被写体までの撮影距離と調光範囲をもう一度確認して撮影し直すか、露出モードを絞り優先オートまたはマニュアルに切り換えて調光範囲となる絞り値を選択して撮影してください。

1/300TTL高速シンクロ時の調光範囲について(対象カメラ：F5カメラのみ)

SB-27のAUTO位置による1/300TTL高速シンクロ撮影時は、SB-27表示パネルの調光範囲バーグラフから、遠距離側の調光範囲を読み取ることはできません。
1/300TTL高速シンクロ時のガイドナンバーは、設定してある照射角度ごとに下表のようになりますので、次の計算により算出してください。

1/300TTL高速シンクロ時のガイドナンバー（ISO・100・m）

照射角度	24mm	28mm	35mm	50mm
ガイドナンバー	11	12	14	16

1/300TTL高速シンクロ時の調光範囲の求め方

D（遠距離側の撮影距離）＝GN（ガイドナンバー）÷F（絞り値）

例、フィルム感度ISO100、照射角度35mm、絞り値F5.6のとき、
D=14÷5.6=2.5ですから、遠距離側の調光範囲は2.5mとなります。
近距離側の調光範囲はSB-27の調光範囲バーグラフから0.6と読み取れますので、この場合の調光範囲は、0.6～2.5mとなります。

・フィルム感度ISO100以外をご使用になる場合は、上表のガイドナンバーに下表の係数を乗じて算出してください。

ISO	25	50	200	400	800
係数	×0,5	×0,71	×1,4	×2	×2,8

応用編

SB-27の機能をいかした応用撮影について
説明しています。

［作例：バウンス撮影］

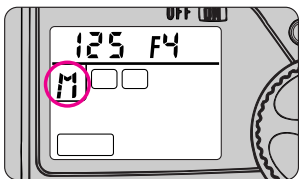
［作例：増灯撮影］

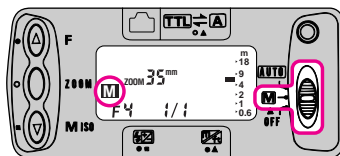
M(マニュアル)位置での撮影の手順

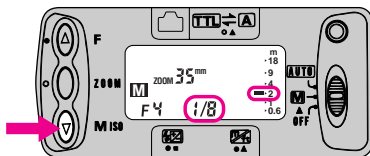
SB-27に設定された光量レベルで発光するモードです。撮影状況などに合わせてご使用ください。

…表示パネルに表示される撮影距離表示▬は目安です。厳密な絞り値を求めたい場合は、

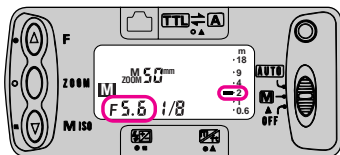
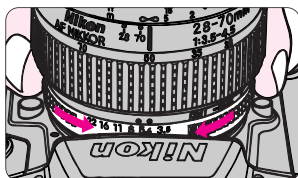
☞P 50「ガイドナンバー計算」をご覧ください。

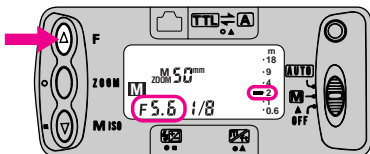
1 カメラの露出モードを、絞り優先オートまたはマニュアルに設定します。

（F90Xの場合）

2 SB-27のモードスイッチをMに設定します。

M（マニュアル）に設定時は、SB-27の表示パネルにMが表示されます。

3 SB-27のMボタンを押して光量を設定します。

光量表示は1／1→1／2→1／4→1／8→1／16の順に変化し、同時に撮影距離表示━も変化します。

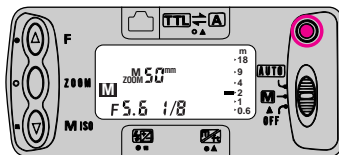
4 SB-27とカメラの絞り値を設定します。

A.Bグループカメラにcpu内蔵ニッコールレンズ装着時

カメラのコマンドダイヤルまたはレンズの絞りリングを回すと、SB-27の表示パネルの絞り値と━表示が変化しますので、撮影距離は━表示位置で撮影してください。

上記以外の組み合わせで使用する場合

F ボタンを押しながら絞り値を変化させ、━表示が被写体までの撮影距離と一致する絞り値を読み取って、カメラ側に同一の絞り値を設定してください。

〈参考〉 マニュアル光量と絞り値の選択に当たって

- 撮影距離を遠くにしたいときは、光量を1／1側にするか、より開放側の絞り値（数値の小さい絞り値）を選び、撮影距離を近くにしたいときは、この逆にします。
- ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したいときは、より絞り込んだ（数値の大きい）絞り値を選び、光量は1／1側にします。
- リサイクルタイム（発光から充電完了までの時間）を短くしたいときは、光量を1／16側にして、より開放（数値の小さい）側の絞り値を選びます。

5 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

連続的な発光について

Mモード時の光量が1／8〜1／16のとき、モータードライブ等による連続撮影に対応して、15コマ／秒以下のスピードで連続4コマまで同調します（内蔵電池使用時）。

電源 ＼ 光量	1／8	1／16
SB-27（内蔵アルカリ電池）	4回	8回
SD-6（内蔵アルカリ電池＋積層315V電池）	10回	20回
SD-7（内蔵アルカリ電池＋単二アルカリ電池）	6回	10回
SD-8/SD-8A（内蔵アルカリ電池＋単三アルカリ電池）	5回	10回

※電池の種類や温度等により、発光回数が異なることがあります。

連続的な発光の制限回数について

発光部の加熱と劣化を防止するため、連続的な発光は下表の回数まででいったん止め、10分以上休ませて発光部を冷却させてください。

SB-27の光量	連続的な発光の制限回数
AUTO位置、M位置 1/1、1/2	15回
M位置 1/4、1/8、1/16	40回

※上記以外の場合でも、適宜冷却時間をとってください。

ガイドナンバー計算

ガイドナンバーは、スピードライトの光量を表わす数値です。
M（マニュアル）時に適正な絞り値を求める際には、次のガイドナンバー計算によって求めることができます。

・F5カメラで1/300TTL高速シンクロ撮影を行う場合のガイドナンバーにつきましては、P44を参照してください。

絞り値の求め方

F（絞り値）＝GN（ガイドナンバー）÷D（撮影距離・m）

撮影距離の求め方

D（撮影距離・m）＝GN（ガイドナンバー）÷F（絞り値）

ガイドナンバー表（ISO100・m、20℃）

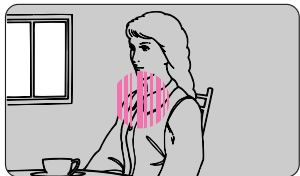
照射角 / 光量	24mm	28mm 通常時	35mm	50mm
1/1(Full)	25	27	30	34
1/2	17.7	19	21.2	24
1/4	12.5	13.5	15	17
1/8	8.8	9.5	10.5	12
1/16	6.2	6.7	7.4	8.5

ガイドナンバーは、使用するフィルムの感度によって異なります。ISO100以外のフィルムを使用する場合は、ガイドナンバー表に下表の係数を乗じて求めてください。

フィルム感度ごとのガイドナンバー算出係数

ISO	25	50	200	400	800	1600
係数	×0.5	×0.71	×1.4	×2	×2.8	×4

※例えば、ISO400、照射角35mm、光量1／1のときは、ガイドナンバーは30×2＝60となります。

暗いところでオートフォーカス撮影をするには
（オートフォーカスカメラのみ）

ニコンのAF一眼レフカメラは、ロウソク1本程度の明るさがあればオートフォーカスでピント合わせができますが、それよりもさらに暗い状態では光が不足してピント合わせができなくなります。
このようなとき、SB-27がセットしてあると、シャッターボタンを半押ししたときにピント合わせのための光が出て被写体を照らします（これを「アクティブ補助光」と呼びます）。
カメラはこの光を頼りにピントを合わせますので、撮影のときにアクティブ補助光窓から出る光を手などでさえぎらないように注意してください。
…アクティブ補助光は、ピント合わせが完了すると、その時点で消灯します。

・F5、F100およびF80シリーズカメラのフォーカスエリアが中央にない場合は、アクティブ補助光は点灯しません（フォーカスエリアを中央にしてください）。

暗いところでオートフォーカス撮影をするには
（オートフォーカスカメラのみ）

アクティブ補助光が点灯するための条件があります（確認してください）。

アクティブ補助光を用いてピント合わせを行うには（5つの必要条件）

1. アクティブ補助光が必要な程度に暗い被写体であること。
   アクティブ補助光による測距可能な距離範囲は約1m～5mです（常温20℃時）。
2. オートフォーカスが可能なAFレンズを装着していること。
   使用可能なAFレンズの焦点距離は、24mmから105mm（F-501は35mmから105mm）を目安にしてください。
   …撮影条件により、上記以外のAFレンズでも使用可能な場合があります。テストを行った上でご使用ください。
3. カメラのフォーカスモードはシングルAFサーボにセットしてあること。
4. フォーカスロックをしていないこと。
5. レディライトが点灯していること。
   アクティブ補助光の点灯後、レディライトが著しく暗くなったり、点滅する場合はSB-27の電池を交換してください。

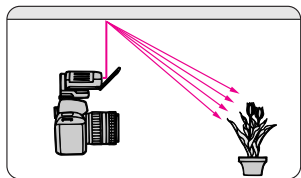
※シャッターボタンを半押ししたときに、アクティブ補助光は点灯するがファインダー内に合焦表示が点灯しないときは、測距不可能な状態です。フォーカスモードをマニュアルに切り換えて、手動でピント合わせをしてください。

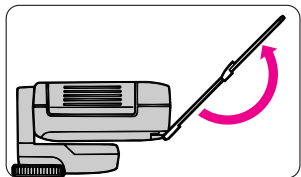
バウンス撮影をするには（各カメラ共通）

〔通常撮影〕

〔バウンス撮影〕

バウンス撮影は、被写体の後ろに壁などがあるときに、スピードライト光をいったん天井や白壁に当てて拡散させ、その反射光によって被写体を照明する撮影方法です。この方法によって、スピードライト光を正面から当てたときに出る目ざわりな影もなくなり、ソフトな写真を撮ることができます。

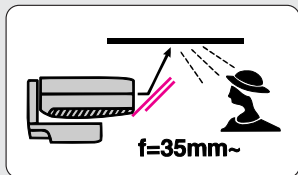
〔上方向のバウンス〕

SB-27は、上方向に90°、左方向に90°のバウンスが可能です。

拡散板について

SB-27は、バウンス撮影での人物撮影時にスピードライト光の一部を目に反射させてキャッチライト効果を出せる拡散板を内蔵しています（☞P 57）。

バウンス撮影をするには（各カメラ共通）

上方向バウンス撮影に関する注意事項

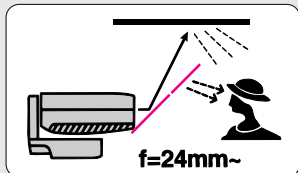
使用するレンズの焦点距離によって、バウンス反射板、拡散板のセット方法が異なりますので、下記の事項にご注意ください。

レンズの焦点距離が35mm以上の場合

バウンス反射板をイラストのようにセットしてください。

…バウンス反射板をイラストのようにセットした状態では、35mmより広角側のレンズは使用できません。

※バウンス反射板に貼ってあるシールの中央のイラストは、この内容を示したものです。

※キャッチライト効果を出したい場合には、拡散板もセットしてください（セット方法は☞P57）。

レンズの焦点距離が24mm以上の場合

バウンス反射板と拡散板の両方をイラストのようにセットしてください。

…バウンス反射板と拡散板をイラストのようにセットした場合でも、24mmより広角側のレンズは使用できません。

※バウンス反射板に貼ってあるシールの一番下のイラストは、この内容を示したものです。

※キャッチライト効果の有無に関わらず、拡散板を常にセットした状態で使用してください（セット方法は☞P57）。

左方向バウンス撮影に関する注意事項

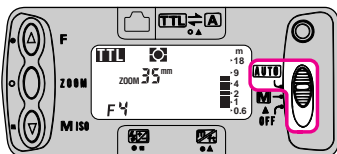
※バウンス反射板のみをセットした状態では、50mmより広角側のレンズは使用できません。

※バウンス反射板と拡散板の両方をセットした場合は、35mmより広角側のレンズは使用できません。

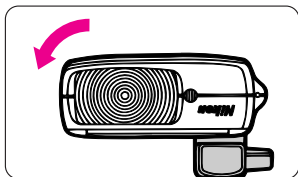
バウンス撮影の手順

1 カメラの露出モードを絞り優先オートまたはマニュアルにします。

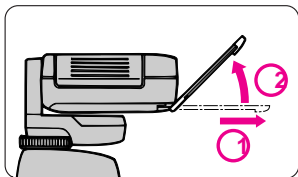
バウンス撮影時は、通常撮影時に比べ、光量が2〜3絞り相当分低下します。なるべく開放側の絞り値（より小さい数値の絞り値）を設定して、露出を1段程度変えて余分に撮影しておくことをおすすめします。

2 SB-27のモードスイッチをAUTOにします。

A〜Fグループカメラとの組み合わせではカメラ設定スイッチがTTL STBY側に、Gグループカメラとの組み合わせでは側に設定してあることを確認してください。

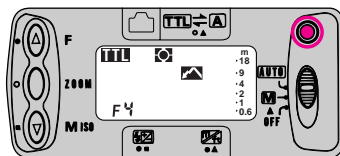
…GグループカメラとのB組み合わせではTTL STBYは使用できません。

3 バウンスさせる反射面を決め、フラッシュヘッドの向きをセットします。

バウンス撮影をするには（各カメラ共通）

バウンスさせる反射面は、なるべく反射率の高い、白い面を選んでください。カラー写真の場合、反射面に色があると、色反射によって正しい発色が得られませんのでご注意ください。

4 バウンス反射板をセットします。

バウンス反射板を①のように引き出してから、②のように約45度傾け、爪をかけて止めてください（表示パネルにバウンス表示 が点灯します）。

…バウンス反射板は強く引き出さないでください。

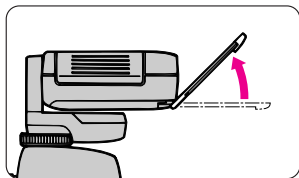
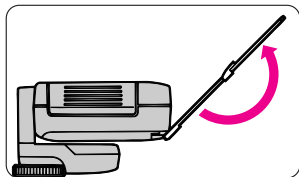
5 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

SB-27の発光直後にレディライトが約3秒間点滅した場合は、絞りをより開放側にして撮影し直してください。

…バウンス撮影時は、絞り値と調光範囲の関係が変わるため、調光範囲バーグラフは表示されません。

バウンス撮影時に、目をきれいに描写するには

バウンス撮影では、スピードライト光が正面から当たらないため被写体の目を輝かせて写すことができませんが、SB-27には、スピードライト光の一部を目に反射させて、キャッチライト効果が得られる拡散板を内蔵しています。

拡散板のセット方法

1 バウンス反射板をセットします。

2 拡散板を起こします。

いったん止まった拡散板を、もう一段、起こしてください。

近接撮影をするには(A、B、C、D、E、Fグループカメラ)

SB-27の拡散板はスピードライト光を拡散させて、被写体の影をやわらげる効果もあります。このため、0.3mからの近接撮影においても、SB-27をカメラに取り付けたまま、影をやわらげた、自然な感じの写真を撮ることができます。

近接撮影には2つの方法があります。

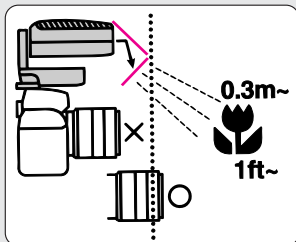
①SB-27をカメラに装着したまま撮影する方法（☞P60）

②TTL調光コードを使用して、SB-27をカメラから外して撮影する方法（☞P62）

※白い被写体、黒い被写体など、被写体の反射率によっては適正露出が得られないことがあります。このような撮影状況時には、露出補正（☞P64、P73）をおすすめします。

近接撮影に関する注意事項

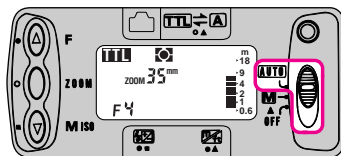
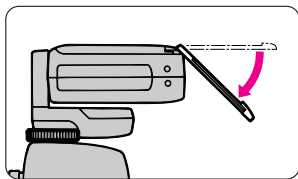
SB-27をカメラに直接装着したまま近接撮影を行う際は、下記の事項にご注意ください。

使用できるレンズに制限があります。

- 装着したレンズの先端が、セットしてあるバウンス反射板（イラストの……… 部分）より短くなるレンズのご使用は、レンズへの入射光がバウンス反射板などに反射して、フィルム面に配光ムラを生じる「フレア」現象が発生するため、おすすめできません。
  ※バウンス反射板に貼ってあるシールの一番上のイラストは、この内容を示したものです。
- 近接撮影の際に特に注意していただきたいことは、ライティング（光の当て方）や、使用するレンズ、撮影距離等によって、撮影画面の一部が光量不足となる「ケラレ」現象が発生することがありますので、まず試し撮りすることをおすすめします。

SB-27をカメラに直接装着した近接撮影

1 カメラの露出モードを絞り優先オート、またはマニュアルにします。

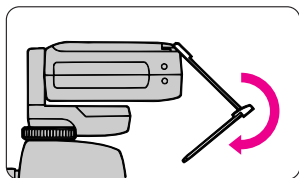
…カメラにイメージプログラムのクローズアップモードを備えている場合は、クローズアップモードに設定すると近接撮影が簡単に行えます。

2 SB-27のモードスイッチをAUTOにします。

3 バウンス反射板をセットします。

バウンス反射板を十分に引き出し、約45度傾けて、ツメをかけて止めてください（表示パネルにバウンス表示 が点灯します）。

…バウンス反射板は強く引き出さないでください。

〈参考〉 バウンス反射板が外れて、撮影レンズの照射角に設定できなくなった場合は

ZOOMボタンとFボタンを同時に約4秒間押し続けると、照射角表示が点滅し、24mm、28mm、35mm、50mmの4段階（フラッシュヘッドが垂直の場合は35mm、50mm、70mmの3段階）でカメラ、レンズの組み合わせに応じてオートパワーズーム、またはマニュアル照射角設定が可能となります。☞P24

4 拡散板を図のようにセットします。

SB-27の拡散板は、0.3〜1m前後の近接撮影に効果的です。
※外部自動調光による近接撮影には、拡散板の使用はできません（拡散板セット時は適正露出が得られません）。

5 カメラ側の絞り値を下記の計算式から求めて設定します。

$$\text{絞り値} \geqq \frac{\alpha\ \text{（使用するフィルム感度により下表の値を使用）}}{\text{発光距離（SB-27の発光部から被写体までの距離）m}}$$

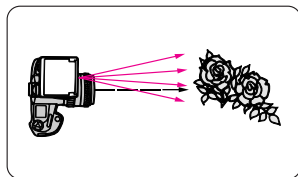
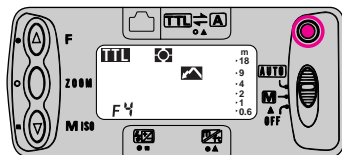
各フィルム感度によるαの値（露出補正をしてないとき）

ISO	100以下	125〜400	500以上
α	1	2	2.8

例. ISO100のフィルムを使用して、発光距離が0.5mの場合

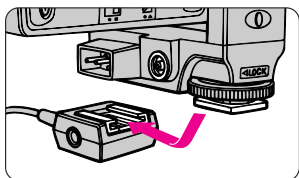
$$\text{絞り値} \geqq \frac{1}{0.5} = 2$$

※この場合、カメラ側に設定する絞り値はF2を設定すればよいことになりますが、状況の許す限り、より数値の大きい絞り値（F2.8、F4等）を設定してください。

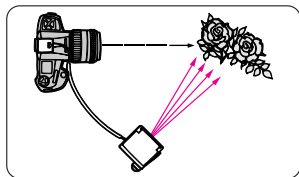
6 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

SB-27の発光直後にレディライトが約3秒間点滅した場合は、☞P44を参照してください。

TTL調光コードを使用した近接撮

被写体に照明を十分に当てたい場合や、正面以外から照明を当てて、ライティング効果を得る場合には、SB-27をカメラから外し、TTL調光コード（別売り）を使用して接続してください。

1 SB-27をカメラから外し、TTL調光コードで接続します。

…F4カメラにDW-20、DW-21装着時はSC-24（別売り）を、その他のカメラにはSC-17（別売り）を使用します。

2 カメラの露出モードをAまたはMにして、SB-27のモードスイッチをAUTOにします。

3 SB-27を適切な位置、角度にセットします。

…カメラから離したSB-27のスピードライト光が被写体に十分に当たる位置、角度にセットしてください。

※Aグループカメラで3D-マルチBL調光撮影時は、カメラと被写体間の距離情報を使用していますので、SB-27をカメラから離す場合は、調光誤差を防ぐために、☞P 67の方法でTTL調光に切り換えて撮影してください。

4 カメラ側の絞り値を下記の計算式から求めて設定します。

絞り値 ≧ α（使用するフィルム感度により下表の値を使用） / 発光距離（SB-27の発光部から被写体までの距離）m

各フィルム感度によるαの値（露出補正をしてないとき）

ISO	100以下	125～400	500以上
α	4	8	11

例.　ISO100のフィルムを使用して、発光距離が0.5mの場合

絞り値 ≧ $\frac{4}{0.5}$ ＝8

※この場合、カメラ側に設定する絞り値はF8を設定すればよいことになりますが、状況の許す限り、より数値の大きい絞り値（F11、F16等）を設定してください。

※白い被写体、黒い被写体など、被写体の反射率によっては適正露出が得られないことがあります。このような撮影状況時には、露出補正（☞P64、P73）をおすすめします。

5 レディライトの点灯を確認して、撮影します。

スピードライトの調光レベル(光量)のみを補正するには
（A、B、Cグループカメラ）

〔プラス側に補正〕

〔マイナス側に補正〕

AUTO位置でのTTL調光撮影時に、撮影画面内に反射率が極端に高いものがある場合や、主要被写体が画面の端に位置するときなどには、露出アンダーまたは露出オーバーになることがあります。このような撮影状況時には、調光補正（TTL調光時にスピードライトの調光レベルのみの補正）をおすすめします。
被写体に比べて背景が明るい場合はプラス側に、暗い場合はマイナス側に補正します。

…Aグループカメラでマルチエリアで BL調光撮影時には、撮影状況に応じてカメラが自動的に補正するので、通常の撮影範囲では、補正の必要はありません。

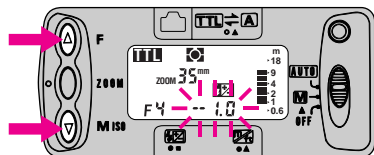
…補正を行うと調光範囲が変化しますので、補正後の調光範囲で撮影してください。

調光補正の設定方法

補正方法は、組み合わせるカメラによって異なります。

A、Bグループカメラの場合

カメラ側に調光補正機能がある場合は、SB-27、カメラ側のいずれで設定しても構いません（併用することもできます）。併用した場合は、すべての補正量を加算した値で補正が行われますが、SB-27の調光補正値表示には、カメラ側の補正量は加算表示されません（SB-27で設定した補正量のみ表示されます）。

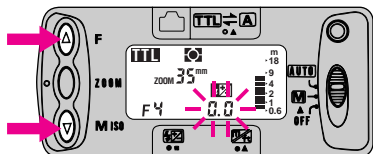
FボタンとMボタンを同時に押してから、補正量を設定します。

この操作により、調光補正値が点滅表示をして、補正値の入力が可能になります（調光補正値表示は、約4秒間点滅したのち点灯表示になります。

プラス側に補正する場合はFボタンを、マイナス側に補正する場合はMボタンを押します。

設定できる補正量は、⅓段ステップで－側は－0.3段から－3.0段まで、＋側は＋0.3段から＋1.0段までの範囲です。

表示パネルに調光補正表示と調光補正値が点灯します。

調光補正の解除方法

調光補正は、電源をOFFにしても解除されません。解除する場合は、設定時と同じ操作で補正量を0.0にします。

Cグループカメラの場合

Cグループカメラは、カメラ側の操作によって、調光補正を行ってください。
…詳細はカメラの使用説明書をご参照ください。
カメラ側で調光補正や露出補正を行った場合は、SB-27の調光補正値や調光範囲表示に連動しませんので、調光範囲の確認は、SB-27の表示パネルでフィルム感度（ISO値）の設定を変えて読み取ります。

例えば、ISO100のフィルム使用時に、＋1段の補正を行った場合はISO値の設定を50に、－2段なら400に設定して読み取ります（☞P 23）。

〈参考〉

カメラ側で通常の露出補正を行った場合は、SB-27の光量と背景露出の両方に補正が行われます。

増灯撮影をするには（各カメラ共通）

〔1灯による撮影〕

〔増灯撮影〕

1灯のスピードライトでは強い影が出てしまうときや、奥行きのある写真を撮るには十分なライティング効果が得られないときなどには、スピードライトを何灯か併用する「増灯撮影」を行うと効果的なライティング効果が得られます。
増灯撮影には、TTL調光による方法と、マニュアルによる方法があります。

…TTL増灯撮影が可能なカメラは、A、B、C、D、E、FグループカメラとF3シリーズカメラです。マニュアル増灯撮影は、各カメラで可能です。

…TTL、マニュアルのいずれの増灯撮影も、ポイントはマスターとなるスピードライト（主灯）と、サブ（補助灯）とを明確に区別することです。例えば、影を弱める目的で補助灯を使用する場合は、補助灯の光量を主灯に比べて数分の1程度弱めに設定するのがコツといえます。

対象カメラ：A グループカメラ

・SB-27を主灯にして3D-マルチBL調光によるTTL増灯撮影を行うと、モニター発光時の状況と実際の撮影状況とが異なるため、正しい露出制御が行われないことがあります。SB-27を主灯として使用する際は、下記いずれかの方法でSB-27のモニター発光を解除してから使用してください。

※下記状態のとき、モニター発光は行いません。

- バウンス反射板を上方向または左方向に設定時
- TTL調光（BL調光でない、通常のTTL調光）時
- CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時
- 測光モードをスポット測光に設定時（F90X、F90シリーズ、F70Dを除く）

TTL増灯撮影の手

使用できるスピードライトと増灯アクセサリーを☞P 70で確認してください。

1 マスタースピードライトをカメラに装着します。

2 サブスピードライトとマスタースピードライトを接続します。

…すべてのスピードライトの電源をOFFにして接続してください。

3 すべてのスピードライトをTTLモードにします。

…電源スイッチはSTBYには設定しないでください。

SB-27を補助灯に使用する場合(A､B､C､D､E､Fグループカメラ)

SB-27を補助灯として使用する場合は、P73の方法でカメラ設定スイッチを側に設定して、強制TTLモードに切り換えてください。カメラ設定スイッチをTTL STBY側に設定したまま撮影した場合には、スタンバイ機能が働いて補助灯は発光しません。

4 主灯と補助灯を設置します。

まず、主灯の被写体への照射角度と被写体までの発光距離を決めます。次に、補助灯も同様に設定します。

5 以下、通常のTTL調光撮影時と同様に撮影します。

対象カメラ：A、B、C、Dグループカメ

・増灯撮影時に、シンクロ回路への電流が一定値以上になると、発光後、次の発光ができなくなることがあります。
この場合、すべてのスピードライトの電源をいったんOFFにするか、SB-27をカメラから外すと正常に戻ります。

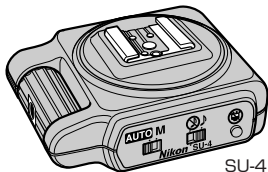
・当社製スピードライトを1灯で使用する場合は問題ありませんが、増灯撮影時は、下記のスピードライトの係数の合計が、20℃の場合で20（40℃で13）を超えない範囲内の台数でご使用ください。
〔スピードライトの係数〕
SB-80DX（1）、SB-50DX（1）、SB-30（1）、SB-29s/29（1）、SB-28/28DX（1）、SB-27（1）、SB-26（1）、SB-25（1）、SB-24（1）、SB-23（4）、SB-22s（1）、SB-22（6）、SB-21（4）、SB-20（9）、SB-17（4）、SB-16（4）、SB-15（4）、SB-14（1）、SB-11（1）、SB-140（1）
※（　）内の係数は、1につき70マイクロアンペアに相当します。

コードレスによるTTL増灯

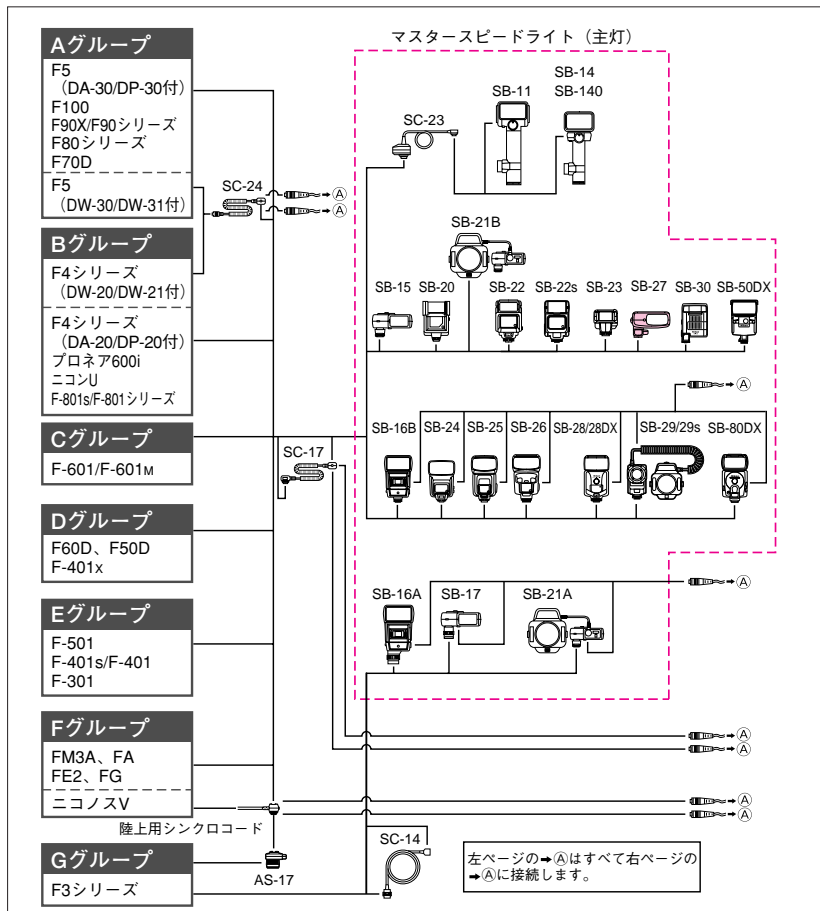
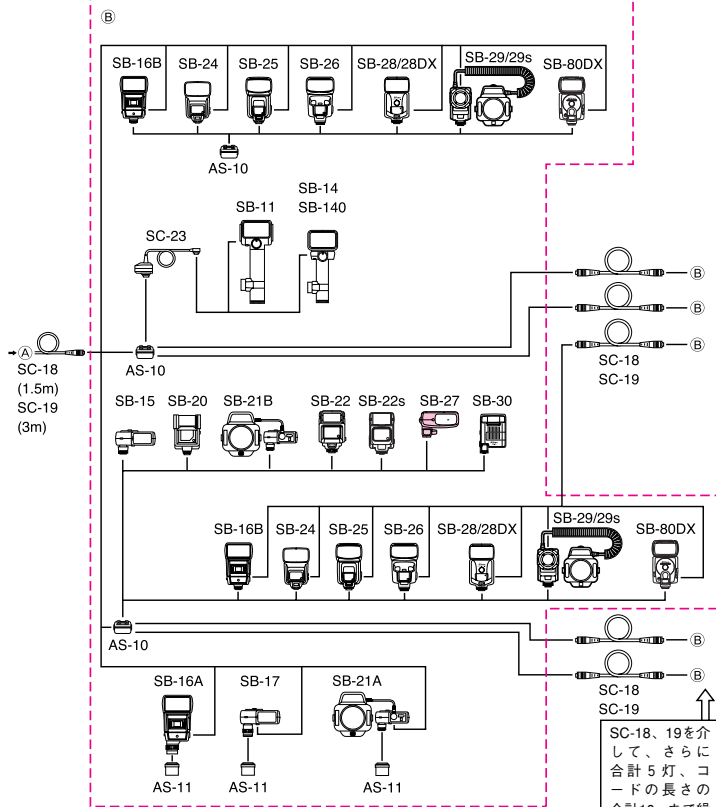
…別売りスレーブフラッシュコントローラーSU-4を使用すれば、主灯の発光開始と発光停止をSU-4のセンサーで検知し、SU-4を取り付けたスピードライトの発光開始と停止を同じタイミングで制御しますので、TTLモードによる増灯撮影が可能です。また、SU-4のモードを切り換えることによりマニュアル増灯撮影もコードレスで可能です。

…SU-4に装着可能なスピードライトは、次のとおりです。
SB-29s/SB-29/SB-28/SB-28DX/SB-27/SB-26/SB-25/
SB-24/SB-23/SB-22s/SB-22/SB-20/
SB-16B/SB-15

…詳細は、SU-4の使用説明書をご覧ください。

SU-4

TTL増灯撮影システムチャート

- F-401、F-401sには、SB-11、14、140、21Bは主灯、補助灯側ともに使用できません。

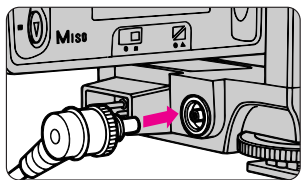
サブスピードライト（補助灯）
Ⓑ
SB-16B
SB-24
SB-25
SB-26
SB-28/28DX
SB-29/29s
SB-80DX
AS-10
SB-14
SB-140
SB-11
SC-23
Ⓑ
Ⓑ
Ⓑ
Ⓐ
SC-18
(1.5m)
SC-19
(3m)
AS-10
SC-18
SC-19
SB-15
SB-20
SB-21B
SB-22
SB-22s
SB-27
SB-30
SB-16B
SB-24
SB-25
SB-26
SB-28/28DX
SB-29/29s
SB-80DX
AS-10
Ⓑ
Ⓑ
SB-16A
SB-17
SB-21A
SC-18
SC-19
AS-11
AS-11
AS-11
SC-18、19を介して、さらに合計5灯、コードの長さの合計10mまで繰り返し増灯可能です。

マニュアル増灯撮影の手順：各カメラ共通

補助灯に使用できるスピードライト

SB-80DX、SB-30、SB-29s/29、SB-28/28DX、SB-27、SB-26、SB-25、SB-24、SB-22s、SB-22、SB-20、SB-17、SB-16、SB-15、SB-14、SB-11、SB-140

使用可能な接続コード（別売り、☞P 81）

シンクロコードSC-11／SC-15、TTL調光コードSC-17、TTL増灯コードSC-18／SC-19

1 SB-27と補助灯のシンクロターミナルにコードを接続します。

2 すべてのスピードライトをマニュアルにします。

3 主灯と補助灯を設置します。

まず、主灯の被写体への照射角度と被写体までの発光距離を決めます。次に、補助灯も同様に設定します。

4 以下、マニュアル撮影時と同様に撮影します。

…マニュアル時の各光量に対するガイドナンバーは☞P 50をご参照ください。

強制TTLと強制Aモードに設定するには
（各カメラ共通）

下記の操作により、強制TTLと強制Aモードに設定できます。

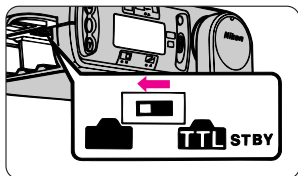
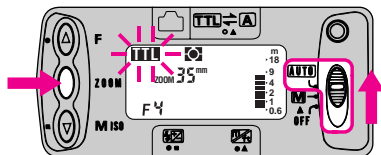
・強制TTLモードは、☞P 67の増灯撮影で、SB-27を補助灯として用いる際に設定してください。

・強制A（外部自動調光）モードは、A～Fグループカメラで、手軽に露出補正を行いたい際に設定してください。

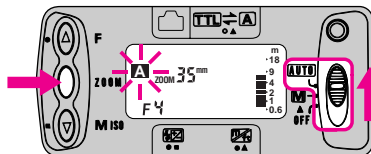
強制TTL、強制Aモードの設定と解除方法

下記1～4の一連の操作で「強制TTL」、「強制A」、「強制モードの解除」が順次行えます。

強制TTLモー

1 電池室内の「カメラ設定スイッチ」を に設定します。

2 ZOOMボタンを押しながら、モードスイッチをOFF位置からAUTOに設定します。

強制TTLモードに入ると、表示パネルにTTL表示が点滅を続けて知らせます。

強制Aモード

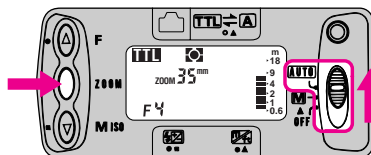
3 ZOOMボタンを押しながら、モードスイッチをOFF位置からAUTOに設定します。

強制A（外部自動調光）モードに入ると、表示パネルにA表示が点滅を続けて知らせます。

《注意》

・外部自動調光撮影の際は、カメラの露出モードを絞り優先オート、またはマニュアルにして、SB-27とカメラ側の両方に同じ絞り値を設定した場合は、適正露出となります。

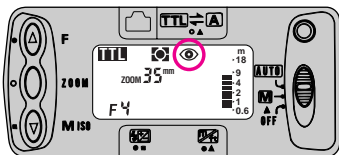
・SB-27に設定した絞り値よりも、開放側（より小さい数値）の絞り値をカメラ側に設定した場合はオーバー露出となり、この逆の場合はアンダー露出となります。

強制モードの解除

4 ZOOMボタンを押しながら、モードスイッチをOFF位置からAUTOに設定します。

この操作により、A表示の点滅が消灯して、A～Fグループカメラでは通常のTTLモードに、Gグループカメラでは外部自動調光モードに切り換わります。

目が赤く写るのを軽減するには(F5を除くAグループカメラおよびプロネア600i)

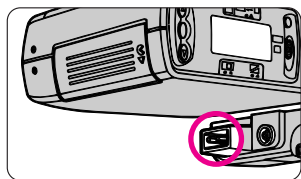
スピードライト撮影時に、人物の目が赤く写ってしまう「赤目現象」が発生することがあります。この現象は、スピードライト光が網膜の血管に反射するために起きる現象です。スピードライトの位置がレンズの光軸に近いときや、周囲が暗いために瞳孔が大きく開いているときに発生しやすくなります。なおいったん赤目が発生したフィルムの救済方法はありませんのでご了承下さい。

Aグループカメラ（F5を除く）およびプロネア600iとの組み合わせでは、カメラ側の設定により、赤目現象を軽減するためのランププリ照射を本発光前に約1秒間行って、赤目現象を軽減します。

…カメラ側で赤目軽減発光または赤目軽減スローシンクロを設定すると、SB-27の表示パネルに赤目軽減発光表示が点灯します。

…SB-27では赤目軽減発光の設定はできません。赤目軽減発光の設定方法は、各カメラの使用説明書をご覧ください。

資料編

故障かな？と思ったときや、
アフターサービスなどについて
説明しています。
必要に応じてお読みください。

外部から電源を供給するには

別売りの外部電源を使用すると、安定した電源供給が確保でき、発光回数の増加、発光間隔の短縮などの効果が得られます。
別売りの外部電源を使用する際は、各製品の電源コードをSB-27の外部電源コネクターに接続してください。

…外部電源使用時も、SB-27本体内の電池は必要です。SB-27本体内の電池を抜いた状態では作動しませんのでご注意ください。

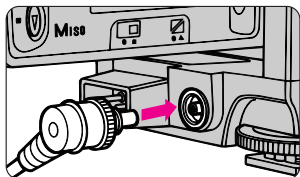
使用できる外部電源（別売り、☞P 82）

外部電源	使用電池	最短発光間隔（電池初期状態）	発光間隔と発光回数
積層パック SD-6	積層電池（315V）×1	約1.5秒	1.5秒～30秒で約600回
単二パック SD-7	単二形 アルカリ電池×6	約2.5秒	2.5秒～30秒で約500回
パワーアシストパック SD-8/SD-8A	単三形 アルカリ乾電池×6	約2.5秒	2.5秒～30秒で約350回
	単三形 ニカド電池×6	約1.8秒	1.8秒～30秒で約150回

…SD-8/SD-8A使用時は、SB-27本体内にもSD-8/SD-8Aと同タイプの電池をご使用ください。

他社製の外部電源について

他社製の外部電源を使用した場合、どのような事故・故障が発生するか予測できませんので、ご使用はおすすめできません。

SB-27とカメラをコードで接続するには

SB-27とカメラをシンクロコードで接続する場合は、SB-27のシンクロターミナルに接続します。

使用できるシンクロコード（別売り、☞P 81）

SC-11、SC-15

…シンクロターミナルを備えていないカメラと接続する場合は、ホットシューアダプターAS-15（別売り）をご使用ください。

SB-27とカメラをシンクロコードで接続した場合は、発光機能以外はカメラとの連動は行われません。従って、カメラのレディライトの点灯や同調シャッタースピードへの自動切り換えなどは行われませんので、ご注意ください。
…これらの機能を生かしたままSB-27をカメラから離して使用する場合は、TTL調光コードSC-17、SC-24（いずれも別売り、☞P 81）をご使用ください。

カメラ側のレディライトによる点滅警告について

下記の場合、ファインダー内のレディライトのみが点滅して警告します。

（F90Xの場合）

■F-501、F-401s、F-401、F-301、FA、FE2、FG、ニコノスV

TTLモード時のフィルム感度が高感度側に連動範囲外のとき、点滅警告します（FAは低感度側も警告します）。

■FA、FE2、FG、ニコノスV

TTLモード時のシャッタースピードがM90、M250、Bのいずれかに設定されているとき、点滅警告します。

■FM3A、New FM2

高速側のシャッタースピードが同調速度を越えると、点滅警告します。

■TTLモードが可能なホットシュー付きカメラ

カメラにSB-27が確実に取り付けられていない場合、シャッターボタンを半押ししたとき、点滅警告します。

■F90X・F90シリーズ、F70D、F-601、F-601M、F60D、F50D、F-401x、F-401s、F-401

被写体が暗いとき、レディライト（またはスピードライト推奨マーク）が点滅（カメラによっては点灯）してスピードライト撮影をすすめます。

故障かな？と思ったときには

症状	原因	処置	参照ページ
ϟが点灯しない	・電池が正しく入っていない。 ・電池容量が不足している。 ・電池室内の接触バネが汚れている。	・電池の向きを正しく入れる。 ・新しい電池と交換する。 ・接触バネを拭く。	P. 15
電源がOFFになってしまう	・電池残量が少ない。 ・カメラ設定スイッチがTTL STBYになっている（Gグループカメラ）。	・新しい電池と交換する。 ・カメラ設定スイッチをカメラマークに設定する。	P. 15、22 P. 17
バーグラフが表示されない	・バウンス撮影時の反射板がセットしてある。または正しく収納されていない。	・反射板を収納する。	P. 56
M（照射角表示部）の文字が点滅（A、Bグループカメラ）	・オートパワーズームを解除している。	・オートパワーズームに復帰させる。	P. 24
ズームマークが点灯しない（Aグループカメラ）	・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着している。 ・TTL調光になっている。	・CPU内蔵ニッコールレンズを装着する。 ・Mボタンを押して、ズームマークを表示させる。	P. 28 P. 28
◢が点滅し、数値が点灯する（Aグループカメラ）	・フル発光によって露出不足のおそれがあることを警告している。	・数値を参考に、撮影距離、絞り値、調光範囲を再度確認して、撮影し直す。	P. 44
FEE が点滅する	・レンズの絞りが最小絞りになっていない。	・レンズの絞りを最小絞りにするか、露出モードをAまたはMにする。	

※SB-27使用説明書の本文にない項目は、参照ページを記載していません。

別売りアクセサリーについて

シンクロコードSC-11／SC-15

SB-27をカメラから離して発光させるときや、アクセサリーシューのないカメラと組み合わせて使用するとき、マニュアル増灯撮影を行う場合などに使用します。SC-11は長さ約25cm、SC-15はコイルシンクロコードで長さ約1mです。

TTL調光コードSC-17／SC-24

SB-27をカメラから離してTTL調光撮影を行う際に使用します。三脚取り付け用のねじ穴と2カ所のTTL増灯ターミナルを備えています。長さは約1.5mです。
F4カメラにDW-20、DW-21装着時はSC-24を使用します。

TTL増灯コードSC-18／SC-19

TTL増灯撮影を行う際に、SC-17やAS-10などの増灯ターミナルに接続して使用します。長さは、SC-18が約1.5m、SC-19が約3mです。

TTL増灯アダプターAS-10

TTLで3灯以上の多灯撮影を行う場合や、補助灯のスピードライトに増灯ターミナルがない場合に使用します。三脚取り付け用のねじ穴と3カ所のTTL増灯ターミナルを備えています。

ホットシューアダプターAS-15

シンクロターミナルを備えていないカメラと接続する場合に使用します。

スレーブフラッシュコントローラーSU-4

主灯の発光開始と発光停止をSU-4のセンサーで検知し、SU-4を取り付けたスピードライトの発光開始と停止を同じタイミングで制御しますので、TTLモードによるコードレス増灯撮影が可能です。また、SU-4のモードを切り換えることによりマニュアル増灯撮影もコードレスで可能です。

TTLガンカプラーAS-17

F3シリーズカメラ専用のアダプターです。
F3専用スピードライト以外のTTLスピードライト（SB-27など）を使用して、TTL調光が可能になります。

外部電源SD-6（積層パック）

安定した電源供給と発光間隔の短縮が可能な外部電源です。315Vの積層電池（0210）1個を使用します。

外部電源SD-7（単二パック）

発光回数が大幅に増加し、発光間隔を短縮できる外部電源です。単二形のアルカリ乾電池6本、または単二形のニカド電池6本を使用します。

パワーアシストパックSD-8A

発光回数が増大し発光間隔の短縮ができる、小型で軽量な外部電源です。単三形のアルカリ乾電池6本、または単三形のニカド電池6本を使用します。

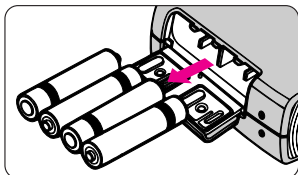
ルミコントロールセットML-2

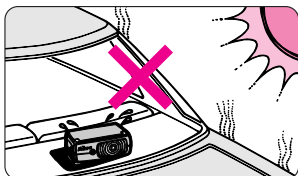
送信機と受信機で1組のセットになっており、2台以上のスピードライトを併用して増灯撮影を行う際にML-2を使うと、ワイヤレスでスピードライトの操作が行えます。

SB-27の取り扱い上の注意

警告	使用禁止	シンナーやベンジンなどの有機溶剤を清浄に使用しないこと 火災や健康障害の原因となります。 製品を破損します。

●SB-27は精密な電子部品から構成されていますので、振動や衝撃を与えないでください。また、表示パネルには無理な力を与えないでください。

■保管する際には

SB-27を約2週間以上使用しないときは、電池は必ず取り出してください。また、コンデンサーの劣化を防ぎ、SB-27を長期にわたってご使用いただけるよう、月に一度を目安に、電池を入れて数回発光させ、しまうときにはレディライトが点灯している状態で電源をOFFにして、電池を取りだしてください。

■保管場所は

かびや故障などを防止するため、風通しのよい乾燥した場所を選んで保管してください。

…ナフタリンや樟脳の入った場所や、磁気を発生する器具（テレビやラジオなど）のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などには置かないでください。

電池の取り扱いについて

⚠警告	 放置禁止	電池は幼児の手の届かないところにおくこと 万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

電池の取り扱いにあたって、以下の点にご注意ください。

●電池の交換は直射日光を避けて行ってください。

電池には、低温になるほど性能が低下する性質、休ませておくと電圧が回復する性質、使わなくても自己放電する性質がありますので、ご使用になる前にはバッテリーのチェックを心がけて、電池は早めに交換することをおすすめします。

・電池の性能は、銘柄によって、また同じ銘柄でも仕様の変更や性能の改善等によって、異なることがあります。

・電池を入れるときは、SB-27の電源をOFFにしてから、⊕ ⊖を間違えないように正しく入れてください。

・SB-27を約2週間以上使用しないときは、電池を取り出して、20℃以下の湿度の低いところに保存してください。

■ニカド電池使用時の注意

ニカド電池をご使用の際には、一般的な注意事項（前述）のほかに、次の事項にも注意してください。

- 充電は、電池メーカー指定の充電器を使用して、電池や充電器に表記された注意事項を守って正しく行ってください。

  …充電は0℃～40℃の範囲で可能ですが、周囲温度が低くなるほど充電量は低下しますので、10℃～30℃の範囲で充電することをおすすめします。

- 電池が熱いままでの充電や、⊕⊖を逆にしての逆充電はしないでください。
- 過充電や過放電の繰り返しは、電池寿命を低下させる原因となります。特に、スイッチの切り忘れなどによる過充電に注意してください。
- 正しい充電を行っても使用時間が著しく減少したときは、寿命ですので電池を交換してください。

用語解説

記載してある用語解説

■マルチエリアBL調光

カメラボディの5分割センサーで測光した情報を基に、背景と主要被写体の両方のバランスを考慮して調光制御を行うBL調光方式。この方式により、撮影画面内に極端に反射率の高いものが存在したり、背景が抜けている撮影状況でも、背景と主要被写体の両方をバランスよく制御して、調光精度を格段に高めています。使用するレンズやスピードライトの種類により、距離信号を使用する3D-マルチBL調光と使用しないマルチBL調光に分かれます（3D-マルチBL調光とマルチBL調光を総称してマルチエリアBL調光と呼びます）。

（F5、F100、F90X・F90シリーズ、F80シリーズ、F70D）

■3D-マルチBL調光

被写体の状況を把握するためのモニター発光を行い、その被写体からの反射光をTTL5分割センサーで測光し、この測光結果とDタイプレンズから得られる被写体までの距離情報を基に、調光対象領域と調光レベルを決定して調光制御を行うBL調光方式。この調光方式により、背景に金屏風などの高反射物があるシーンや、手前に不要な物体が入ってしまったシーンなどで高い効果を発揮します。

（F5、F100、F90X・F90シリーズ、F80シリーズ、F70D）

■マルチBL調光

スピードライト光をTTL5分割センサーで測光して調光制御を行うBL調光方式で、距離情報が得られないDタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ装着時に用いられる方式。使用する別売りスピードライトの種類によっては、モニター発光を行わない場合があります。

（F5、F100、F90X・F90シリーズ、F80シリーズ、F70D）

■1/300TTL高速シンクロ

F5のカスタムセッティングにより同調シャッタースピードを1/300秒にセットすることができます。SB-27をAUTO（TTL）モードに、カメラの露出モードをS、Mモードにしてシャッタースピードを1/300秒にした時に行えます。この場合、SB-27のガイドナンバーは約14（ISO.100照射角度35m時）となります。

P、Aモードでは、1/300TTL高速シンクロにはならず、1/250秒で制御されます。

（F5）

■モニター発光

マルチエリアBL調光時、スピードライトが本発光を行う直前に、撮影画面内の状況を事前に把握するためにスピードライトを瞬間的に発光させる機構。この機構によって、より高度なスピードライト調光が可能です。なお、モニター発光は本発光直前のごく短い時間で行われるため、本発光と区別して確認することはできません。

（F5、F100、F90X・F90シリーズ、F80シリーズ、F70D）

■TTL-BL調光

マルチパターン測光によって得られた画面全域の明るさの情報を基に、調光制御を行うBL調光方式。この方式により、背景と主要被写体との明るさのバランスがとれた自然な感じの写真が撮れます。

（F4シリーズ、ニコン*u*、F-801s・F-801、プロネア600i、F-601・F-601M、F60D、F50D、F-401x）

■簡易TTL-BL調光

中央部重点測光またはスポット測光によって背景光を求め、スピードライトの調光レベルを一律にやや弱めに制御するBL調光。CPUを内蔵していないレンズ装着時はマルチパターン測光が使用できないため、TTL-BL調光のかわりに用いられます。

（F5、F100、F90X･F90シリーズ、F70D、F4シリーズ、F-801s･F-801、F-601･F-601M、F60D、F50D、F-401x）

■TTL調光

背景光を考慮せず、主要被写体が適正露出となるようスピードライトの調光レベルを制御する機能。背景によっては、主要被写体が浮き立って描写される場合があります。

（F5、F100、F90X･F90シリーズ、F80シリーズ、F70D、F4シリーズ、F-801s･F-801、プロネア600i、F-601･F-601M、F-501、F-401s･F-401、F-301、FM3A、FA、FE2、FG、ニコノスV）

■先幕シンクロ

後幕シンクロに対する言葉で、スピードライトを発光させるタイミングが先幕走行終了直後に設定してあるシンクロ機構。

通常は先幕シンクロで制御されますが、後幕シンクロ機構を備えているカメラの場合は、カメラ側の設定操作で後幕シンクロも可能です。

（各カメラ共通）

■後幕シンクロ

スピードライトを発光させるタイミングが、シャッターの閉じる直前に設定されたシンクロ機構。動く被写体をスローシャッターで撮影すると、ブレ画像や光の流れなどが進行方向と逆の方向に現われるため、ごく自然な描写が行えます。先幕シンクロの場合は、進行方向に現われるため、不自然さが生じます。
（F5、F100、F90X･F90シリーズ、F80シリーズ、F70D、プロネア600i、F-601･F-601M）

■ガイドナンバー

スピードライトの光量の大きさを示す数値で、単位はGN（ISO100・m）で表記されます。ガイドナンバーから、スピードライト撮影時の設定絞り値や撮影距離が次のように求められます。

ガイドナンバー ÷ 撮影距離 ＝ 設定絞り値
ガイドナンバー ÷ 設定絞り値 ＝ 撮影距離（発光距離）

（各カメラ共通）

■調光範囲

自動調光によって適正露出が得られるスピードライト使用時の撮影可能な距離範囲（メートル）を表わす数値が調光範囲です。調光範囲は、設定した絞り値、使用するフィルム感度などによって異なりますので、スピードライト撮影時にはスピードライト光が被写体まで十分にカバーできる調光範囲内で撮影する必要があります。
（各カメラ共通）

■同調速度

スピードライトの光源が画面全体を一度に照明できる許容範囲となるシャッタースピードのこと。スピードライト使用時にシャッター幕によって画面がケラレない最も高速側のシャッタースピードが最高同調速度となり、これより低速側の速度はすべて同調速度となります。
（各カメラ共通）

■調光補正

カメラの制御機能と連動して、自動的に発光制御されるスピードライトの調光レベルを補正する機能。撮影画面内に白い部分が占める割合が多い場合や、主要被写体が画面中央に位置する場合でも小さいとき、あるいは被写体が画面の端に位置するときなどには、露出アンダーになりやすく、逆の場合や背景が抜けているときには露出オーバーになりやすいので、露出補正や調光補正が効果的です。
（各カメラ共通）

■アクティブ補助光

AFカメラと組み合わせてオートフォーカス撮影を行う際、被写体が暗いときにシャッターボタンの半押しにより赤い光線を投影します。カメラは、この光により暗いところでもピントを合わせることができます。
（AFカメラ）

■赤目軽減発光

スピードライトの本発光の前に約1秒間のランププリ照射を行う機能。これによって、人物の目が赤く写ってしまう「赤目現象」を軽減します。
（F100、F90X･F90シリーズ、F80シリーズ、F70D、プロネア600i）

■外部自動調光

スピードライト光に照らされた被写体の明るさを測光して、スピードライトが自動的に発光量をコントロールします。
（各カメラ共通）

■キャッチライト

人物撮影で被写体の目に照明が写り込み、表情を生き生きとさせるライトをいいます。SB-27にはキャッチライト効果を出す拡散板を内蔵しています。
（各カメラ共通）

■プログラムフラッシュ

絞り値を最小絞りに設定するだけで、使用するフィルム感度に応じて、絞り値をカメラが自動的に制御する方式。
（F-501、F-401s、F-401、F-301）

■増灯撮影

2灯以上のスピードライトを使用して、奥行きや立体感のある写真を撮るのに用いられる方法。

（各カメラ共通）

■バウンス撮影

照明光を直接被写体に当てず、天井などに当て、その反射光で被写体を照明する撮影をいいます。SB-27には、バウンス反射板を内蔵しています。

（各カメラ共通）

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は、ニコンカスタマーサポートセンターでお受けしております。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

- ご転居、ご贈答品などの理由によりご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。
- 当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■補修用性能部品について

SB-27の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年間を目安としています。

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。
- 水没、火災、落下等による故障または破損で、全損と認められる場合は、修理が不可能となります。
- なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

①この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

②保証書は、お買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③保証規定による保証修理は、ご購入日から1年間となっています。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理が受けられないことになります。
万一お受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書がない場合は有料となる場合があります）。

⑤保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

⑥保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕様

型式

アクティブ補助光内蔵直列制御方式自動調光スピードライト

照射角度

水平位置

照射角度	垂直方向	水平方向
24mmレンズの画角をカバー	60°	78°
28mmレンズの画角をカバー	53°	70°
35mmレンズの画角をカバー	46°	60°
50mmレンズの画角をカバー	36°	46°

垂直位置

照射角度	垂直方向	水平方向
35mmレンズの画角をカバー	78°	60°
50mmレンズの画角をカバー	60°	46°
70mmレンズの画角をカバー	46°	36°

ガイドナンバー表（ISO100・m、20℃）

光量＼照射角	24mm	28mm 通常時	35mm	50mm
1/1(Full)	25	27	30	34
1/2	17.7	19	21.2	24
1/4	12.5	13.5	15	17
1/8	8.8	9.5	10.5	12
1/16	6.2	6.7	7.4	8.5

※AUTO（F5カメラのみ）の1/300TTL高速シンクロ時のガイドナンバーはP44

バウンス角度

上方向90°（フラッシュヘッド水平時）
左方向90°（フラッシュヘッド垂直時）

モードスイッチ

OFF／M／AUTOの切り換え式

- M／AUTOポジションにて電源ON
- M／AUTOポジションのとき、カメラ設定スイッチがTTL STBYの場合、電池の消耗を防ぐ「スタンバイ機能」が自動的に働き、約80秒間無操作状態が続くと電源は自動的にOFF
- AUTO：A～Fグループカメラ、各種TTL調光可能（CPU内蔵ニッコール装着時、Aグループカメラのみモニター発光可能）、
  外部自動調光、カメラ設定スイッチがの場合、A～Gグループで可能
  （ISO100のとき、F2.8、F4、F5.6、F8の絞り値選択可能）
- M：各カメラ共マニュアル発光可能
  （1／1・1／2・1／4・1／8・1／16の光量選択可能）

使用電池

単三形アルカリ乾電池（1.5V）／リチウム電池（1.5V）、または充電式の単三形ニカド電池（1.2V）／ニッケル水素電池（1.2V）のいずれかの同一種類の電池を4本

<table>
<tr><td>使用可能外部電源
（別売り）</td><td>・積層パックSD-6（315V）
・単二パックSD-7（単二形乾電池6本）
・パワーアシストパックSD-8/SD-8A（単三形乾電池6本）</td></tr>
<tr><td>発光回数／
発光間隔</td><td>内部電源<table><tr><th>電池の種類</th><th>最短発光間隔</th><th>発光間隔と発光回数</th></tr><tr><td>単三形アルカリ乾電池</td><td>電池初期で約5秒</td><td>5〜30秒で140回以上</td></tr><tr><td>単三形ニカド電池</td><td>電池初期で約3.5秒</td><td>3.5〜30秒で60回以上</td></tr></table>※アクティブ補助光・ズーム作動非使用によるマニュアルFull 発光時
※電池の新旧、および同じ銘柄でも、電池性能の変更等によって異なることがあります</td></tr>
<tr><td>赤目軽減発光</td><td>赤目現象を軽減するランプ・プリ照射（カメラ側の設定により、F5を除くAグループカメラおよびプロネア600iのみ可能）</td></tr>
<tr><td>後幕シンクロ</td><td>シンクロモードに後幕シンクロを備えているカメラは、カメラ側の設定により可能</td></tr>
<tr><td>アクティブ補助光</td><td>被写体が低輝度時にはオートフォーカスを可能にするための補助光を自動照射（当社製のAF一眼レフカメラとの組み合わせ時）</td></tr>
<tr><td>レディライト</td><td>・充電完了時点灯
・AUTO位置時、露出不足のおそれがあるとき、発光直後に約3秒間点滅警告</td></tr>
<tr><td>フラッシュボタン</td><td>テスト発光およびスタンバイ機能でOFFになった電源のONが可能</td></tr>
<tr><td>拡散板</td><td>バウンス撮影時、キャッチライト可能な拡散板を内蔵</td></tr>
<tr><td>セーフティロック
機構</td><td>セーフティロック機構対応カメラとの組み合わせ時、ロックピンにてアクセサリーシューからの外れを防止</td></tr>
<tr><td>表示パネル
距離目盛</td><td>Fボタンとモードスイッチの同時操作にてメートルとフィート表示の切り換え可能</td></tr>
<tr><td>閃光時間</td><td>Full発光時　約1/1000秒、M1/2発光時　約1/1100秒、M1/4発光時　約1/2500秒、M1/8発光時　約1/4200秒、M1/16発光時　約1/6700秒</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>外部電源コネクター・シンクロターミナル付</td></tr>
<tr><td>大きさ</td><td>約107（幅）×70（高さ）×97（奥行）mm（水平設定時）</td></tr>
<tr><td>質量（重さ）</td><td>約340g（電池を除く）</td></tr>
<tr><td>付属品</td><td>ソフトケースSS-27</td></tr>
</table>

※仕様中の性能データはすべて常温（20℃）、新品乾電池使用時のものです。
※仕様・外観の一部を、改善のため予告なしに変更することがあります。

Nikon

■アフターサービスのご案内

■使い方に関するお問い合わせのご案内

ニコンフィルムカメラ、交換レンズ、アクセサリーの使い方に関するお問い合わせをお受けしております。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30～18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）

・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

株式会社ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

TT3F00302001 (K309) 10